

発表者 喜多 厚子

テーマ 「一人ひとりの多様性を認め合い、個性を生かす教育」

はじめまして。喜多厚子と申します。本日は貴重な機会とお時間をいただきまして、まことにありがとうございます。本題に入る前に少し私の趣味からお話しさせていただけたらと思います。

私は小さいころから旅が好きでした。知らない土地に赴き、そこでの人々との交流、様々な人の生き方、新しい文化と出会い、知らない世界を知る発見があるからです。学生時代から今まで約30か国ぐらい旅してきました。旅を通して他国の価値観や考え方などを学び、日本のいい面や逆に足りない面、取り入れたらいい分野、考え方などは、日本から離れて改めて気づけたことです。

世界の中でも日本は平和であり、便利で物質的には豊かといわれていますが、各個人の幸福感や多様性を認める点など足りない点もまだまだ多く、より進んでいる国の教育、あり方について、日本で取り入れたらいいなと思うことを紹介させていただけたらなと思います。

教育の先進国と注目されている北欧スウェーデンでは、最初の教育の場である就学前の学校教育に力を入れています。そこでは、人種の違いや障害の有無などにかかわらず、あらゆる子どもたちが可能な限り生活をともにし、たくさん遊び、学ぶ、インクルーシブな教育です。発達程度、年齢にもこだわらず、子ども一人ひとりの多様なニーズに合った教育をしています。

1歳から保育と教育を受けているということは、世界的に見てもとても珍しく、そこで教えられているのが民主主義の基礎と人間の価値の平等さです。

小学校では、いじめや差別など何かしらの問題が起こってからプランを考えるのではなく、年間を通じて差別の元となりやすい性別、年齢、障害などについて計画的に学んで、予防対策にも取り組んでいるのが特徴です。

常に多様性に目を向けることにより、全ての人に同じ価値があり、平等であるということをじっくりと自然に学んでいっています。言葉で平等と言うのは簡単でも、実践していくのは簡単なことではないので、教育の場を計画的に持ち、日々学んでいくことが重要なのだと思います。その教育には幸福度も高い国といわれる理由があるのではないのでしょうか。

また、年齢が進んでいけば、より主体的に社会に関わる必要性もあり、そこから個人の個性が生かされる場が作り出されるのだと思います。教育の現場では、問題が起きたときに日本ではトップである校長や先生方が話し合い、問題を解決することが多いように感じます。学校は、先生と生徒が一緒につくり上げていくものなので、生徒も学校の現状を知り、意見を知る必要があると思います。

生徒がどうしたいのか、どんな意見、意志を持っているのかを聞くことを重視し、双方向のコミュニケーションにより進むことが重要と考えます。お互いが問題に対する当事者意識を高く持ち、相手の意見、選択を認め合った上での対話をする必要があります。そして、目的に沿ったよりよい選択をともに考えることが重要なのだと思います。

私たちは小さいころから同じであるべき教育を受けてきました。同じことをして、同じ方面に向かって道を歩いていくことが求められました。もちろん同じという素質があるからこそ、日本はここまで立派な国になって、日本人は優れた性格を持っていると海外からもいわれています。ただし、全て同じであることがもちろん正しいわけではありません。同じであることを求め過ぎて個性が制限されて、大きな能力が発揮できず人材を失うこともあるでしょうし、同じであることを求め過ぎて、いじめ問題も起こったりしています。

良質な同じであることを保ちながら、個人の価値を尊重してその能力を伸ばし、思いやりあふれる人への教育が大事だと考えています。

実は、私も異なる性質を持つ人の中の1人で、食品アレルギーを持っています。最近では、私のようなアレルギーを持つ人が少なくありません。普通に食事を楽しめる人と比べて材料に気をつけていかないと命を落とす危険性もあります。ただ、欧米と比べて日本ではアレルギーに関する知識、意識が低く、まだ十分に普及されていないと思います。

アレルギーを持つことによって、宿泊先や飲食店に断られることもしばしばあります。相手側にとってはリスクをなくすことであると理解できますが、私たちのような異なる性質を持つ人たちにとって、多様性の理解がなく、大きな傷となっています。もし、教育現場でも、少しでもこのような多様性があるということを皆さんに伝えてもらえれば、より多くの人たちの生活の質が上がるのではないのでしょうか。

さらに、私の職業は薬剤師です。毎日、様々な病気を持つ患者さんと接しています。同じような病状で同じ薬であっても、患者さんによっての背景はそれぞれ異なり、それぞれの事情があります。常に個人の多様性に意識を向けながら、患者さんの状況を察し、最適なお薬のアドバイスをさせていただいています。

このような精神を持ちながら、今後も頑張っていきたいと思います。よろしく申し上げます。以上です。

区長 よく話が理解できました。今回の教育委員候補者人材推薦登録、なぜやってみようとお考えになったのですか。

喜 多 区報に書かれているものを見まして、海外から日本に帰ってきたときに社会が閉塞感というか、全体的にちょっと暗い国なのかなと思ってしまったのです。教育が一番ベースで、そこでいろいろ、明るく、未来は明るいみたいな感じですかね。それで、教育がやはり一番重要な事項ではないかなと思って応募させていただきました。

区 長 日本の社会の特徴について、我々は国内に暮らしているから気づかないことがたくさんあるわけですが、外国から帰ってこられたときに、教育がベースとなっているとは思うのですが、喜多さんが感じられた中野あるいは日本の課題や問題点はどこにあると思いますか。

喜 多 やはり意見を言うときに同調してほしいという人が結構多いところですかね。異なる人の話とか、「まあ、そうだね」という感じ、本音と建て前というのも日本の文化の難しいところなのか、自分の意見を言いにくいというか。本当に受けているのか、実はそうではないのかという、その曖昧さというか、それがいいところでもあると思うのですが、それが言いにくいものでもあってというのはあると思います。

区 長 ありがとうございます。